

平成元年度 工芸技術記録映画 35 ミリ・カラー・30 分  
企画 文化庁 製作 毎日映画社

# 木工芸

## 大野昭和齋の指物のわざ



無形重要文化財「木工芸」の保持者・大野昭和齋。  
指物を中心とした伝統的な木工芸の技術に自らの個性を加え、  
素材の美しさを生かした作品を生み出してきた。  
この映画は、木のすばらしさに魅せられ木工芸の道一筋に生きた  
昭和齋のわざを記録したものである。



### 大野昭和齋 (おおのしょうわさい)

明治 45 年 岡山県総社市に生まれる 本名・片岡誠喜男 かたおか せきお

大正 15 年 指物師の父について木工芸の道に入る

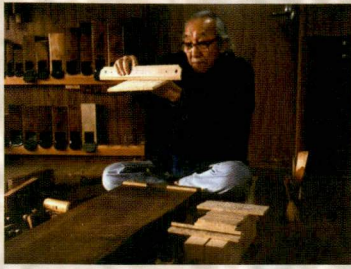
昭和 40 年 第 12 回日本伝統工芸展初入選 作品「桑造木象嵌盛器」

昭和 43 年 第 15 回日本伝統工芸展日本工芸会会長賞 作品「拭漆桑飾箱」

昭和 59 年 重要無形文化財「木工芸」の保持者として認定される

平成 8 年 84 歳で逝去





## プロローグ

昭和齋が手がける、木工芸の作品たち。  
どんな場所で使われるのか、  
そしてどんな茶器と組み合わせるのか、  
その景色がいかに立派になるかを想像しながら作られる。



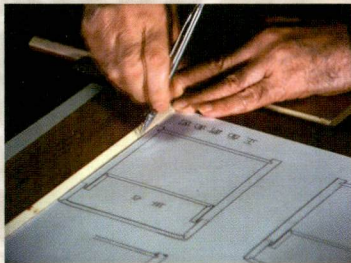
## 日本の森林

日本の温暖で雨の多い気候と、変化に富んだ地形が、  
良材をはぐくむ。  
木工芸は、良質な木材を素材に、  
我が国特有の伝統工芸として高度な発達を遂げてきた。



## くわづくりせんぞうがんにんばこ 桑造線象嵌印箱

昭和齋の作品は、素材の味わいを生かし、  
指物さしものや象嵌ぞうがなどの技術んばこを造形のなかに調和させている。  
桑造線象嵌印箱は、桑の木目の美しさを、  
黄色い黄楊つげと黒柿くろがきの鋭い直線の線象嵌によって際立たせた作品。



## 設計

作品の用途や素材などから、最初にイメージを固める。  
図面を引く段階で、組み立ての手順や構造まで把握しておく。



## 制作を支える木材

工房には、若い頃から集めた銘木が置かれ、  
時には10年、20年と乾燥されている。



## 荒木取り

図面に合わせて部材を切り取る。  
どう切り取れば木目が生きるのか、また、切り取った部材の  
木目が自然につながるよう考えながら作業を進める。





## 「昭和の名人たれ」

指物師の父について木工芸の世界に入った  
昭和齋の素質を見抜いたのは、文人・ゆのき ぎょくそん 柚木玉郎。  
「昭和の名人たれ」の期待を込めて「昭和齋」の雅号を送った。



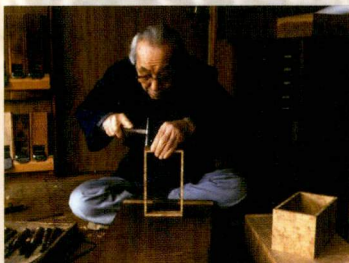
## 木づくり

切り取った部材を、寸法通り仕上げていく。  
木目が複雑になるほど、高度な技術が要求される。



## ほぞ加工

いくつもの板を組み合わせて作る指物。  
この作品には、蟻型隠し留付と呼ばれる非常に複雑な組手くみてを用いる。  
接合部分の突起「ほぞ」とほぞ穴を、  
様々な鑿のみで丹念に削る。



## 仮組み

削りあがった部材を組み合わせ、接合の状態を確認する。  
一点、一角もゆるがせにしない指物師・昭和齋の確かな技が、  
丈夫で美しい指物をつくる。



## 接合

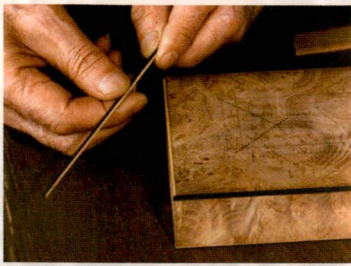
内部を仕上げると、にかわで素早く接着する。



## 合口の調整

蓋と身の合口の水平を厳密に出す。  
身と蓋はどの方向からでもしっかりと合うようになる。





### 線象嵌

象嵌の素材には、黒柿と黄楊を合わせたものが使われる。  
黒と黄色の鋭い直線と、桑の木目の美しさを対比させる。



### 甲盛り

大小さまざまな鉋かんを使い、天板の甲盛りを仕上げる。  
面の鋭さと、天板の微妙な盛り上がりの組み合わせが  
造形の美しさをいっそう際立たせる。



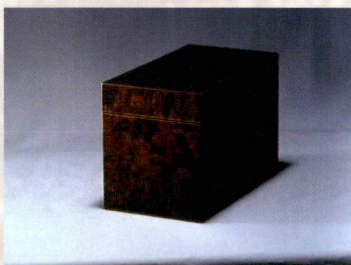
### 渋出し

石灰を湯に溶かして塗り、よく乾燥させて何度か塗り重ね、  
桑の美しい色合いを引き出していく。



### ろうみがき

石灰を取り除いて棕ひくの葉で磨き、さらに蠟で磨く。  
桑の肌が、次第に美しい光沢を帯びて輝き出す。



### 「桑造線象嵌箱」

作品は完成し、作者の手を離れていく。

企画 文化庁 製作 毎日映画社

35 ミリ・カラー・30 分